

ジミー・カーター大統領平和の鐘の歴史



Kazuhisa Konoma, Chairman of Georgia Nihonjin Shokokai (left), and the Honorable Takayuki Kimura, Consul General of Japan, greet President Carter on the occasion of the dedication of the Peace Bell.

第二次世界大戦中、広島県甲奴町の正願寺の大きな梵鐘が、弾薬を作るための金属の供給源として日本海軍によって没収されました。この鐘は1820年に正願寺の築350周年を記念して鑄造されたものです。しかし、これが弾丸に変わる前に戦争は終わりました。

この梵鐘が英国に渡った経緯は終に判明しませんでした。梵鐘は英国人のジェームズ・テラー氏のもとに一旦は落ち着きます。彼の息子、ミロス・テイラー氏が1958年にイギリスで父親の所持品を整理しているときに梵鐘を発見しました。1982年、ミロスさんは、梵鐘を持ってフロリダ州イーストオレンジパーク（ジャクソンビル付近）に引っ越しましたが、1985年、イギリスに戻る前に梵鐘を売りに出しました。アトランタのジョージア日本人商工会と日本国総領事館は、寄付を募り梵鐘を購入しました。

1985年7月24日、在アトランタ日本国総領事館・野々山忠致総領事とジョージア日本人商工会・荒木博光会長は、日本コミュニティーを代表し、カーターセンターと日本庭園の創設記念として、またカーター大統領の世界平和の推進活動に感謝し、カーター大統領夫妻に梵鐘を贈りました。1989年4月にジョージア日本人商工会・古野間計久氏と在アトランタ日本国総領事館・木村崇之総領事が平和の鐘を捧げました。

鐘楼が寄贈された後、国会議員の秋山肇氏がカーターセンターを訪れ、その鐘楼に「備後国世羅郡小童村正願寺」と刻まれていることを確認しました。1987年9月26日に秋山氏は、在アトランタ日本国総領事館・奥典之総領事とともに正願寺を訪れ、僧侶の寺司友夫氏や檀家の代表者と会談しました。

1990年10月21日、カーター大統領は娘のエイミーさんと一緒に甲奴町を訪れ、正願寺でカーター大統領の手書きのメッセージを記した記念碑の除幕式を行いました。「友情の鐘」として世界平和と日米相互交流への期待が込められました。（1990年に甲奴町の人々は梵鐘のレプリカを作成し、実物をカーターセンターに返しました。）同じ年、甲奴の人々は鐘のレプリカを作り、実物をカーターセンターに返却しました。

1994年、カーター大統領は市庁開所とリボンカット式典のために、再び甲奴町を訪れました。現在、甲奴のメインストリートは、カーターアベニューと呼ばれています。同じ通りにカーターステーションがあります。町から出てカーターアベニューを進み右に曲がると、カーターヒルズに入り、カーター野球場を通過すると、最後に市庁に到着し、ジョージア州プレインズから来たように見える4つの家が建てられました。2軒は来館者用、1軒はアートコレクション、最後はアミンというレストランです。甲奴の農家の多くは「カーターピーナッツ」の栽培に取り組み、毎年11月にカーターピーナッツ・フェスティバルが開催されます。

カーター大統領の訪問以来、甲奴中学校の卒業生の多くは、毎年ジョージア州のアメリカス、アトランタ、プレインズを訪問してホームステイをし、カーター大統領を訪問します。そして、お返しに甲奴の人々はアメリカスからの代表団を受け入れてきました。1995年に2つの市町村は友好都市協定を締結しました。